

全 剣 連 剣 道 合 同 稽 古 会 (順不同)

◎「中四国」11月出席指導陣 (11月10日・広島県立総合体育館武道場) ◎

〔範士〕 熊本正

〔教士〕 石岡立之・山根大二郎・米倉滋・成田勝利・三好伸二・赤木茂・津田正臣
小村昭正・本多進一・柏村和宏・山中章義

○次回期日：平成25年2月2日(土) ○会場：岡山武道館 ○時間：午後2時～4時

◎「九州」11月出席指導陣 (11月10日・熊本県浜線健康パーク) ◎

〔範士〕 有満政明・宮川英俊・牧瀬憲保・尾方正照・寺崎邦朗

〔教士〕 西久保誠・右田幸次郎・荒木幸二・清水新二・青木茂・入舟忠司・清田高浩
稲富政博・中山浩二・田代修・佐伯浩美・高濱直規・舟津正人・山田雅士
山本昌克

○次回期日：1月12日(土) ○会場：福岡市民体育館 ○時間：午後2時～4時

○学校教育委員会 (19日)

全剣連設立60周年記念事業に関する報告、剣道研究会議題、平成25年度事業計画・重点事項、第2次若手剣道人(カプセル要員)推薦者等、その他。

訃報

★奥田富藏氏 (居合道範士)

11月12日ご逝去、



95歳。喪主は長女の洋子氏。住所は北海道札幌市南区川沿10条2-8-63。

★中村龍夫氏 (全日本剣道連盟相談役・元副会長・元審議員・元理事・元実業団剣道連盟会長)

11月18日ご逝去、86歳。喪主は、妻の睦子氏。
(追悼文は49頁を参照)

★村主乙彦氏 (居合道範士、全日本剣道連盟居合道委員兼幹事)



11月30日ご逝去、

65歳。喪主は妻の敦子氏。住所は東京都文京区小石川3-27-6-1402。

★鬼倉國次氏 (剣道範士、元関東医師剣道連盟副会長、千葉県剣道連盟参与)



12月3日ご逝去、

94歳。喪主は長男の秀世氏。住所

は千葉県八千代市勝田台2-16-7。
(追悼文は来月掲載予定)

訂正

(1) 12月号13頁2段目左から8行目、「戸田剣道スポーツ少年団」とあるのは、正しくは「戸多剣道スポーツ少年団」です。

(2) 同23頁、全国警察剣道大会第1部の決勝戦詳細で「大阪2-4神奈川」とあるのは、正しくは「愛知2-4大阪」です。

以上、お詫びして訂正します。

【2月号主な記事予告】

▽連載 ①まど(307回・武安義光) ②国際関係コラム・121回▽特記 第11回剣道文化講演会抄録▽審査会 ①教士称号筆記試験問題および解説 ②剣道七・六段(愛知・東京) 審査会分析▽講習会 ①第27回講師要員(試合・審判)研修会 ②女子・男子強化訓練講習会 ③選抜特別訓練講習会第四期第5回 ④社会体育指導員養成講習会 ⑤全剣連後援剣道講習会 ⑥全剣連講師派遣事業報告 ⑦全国剣道指導者研修会▽その他 ①都道府県別新登録者(初段取得者)数一覧表 ②平成25年鏡開き・武道始めなど。

《1月21日(月)発行予定》

今月の表紙写真Ⅱ全剣連広報担当

中村龍夫先生のご逝去を悼む



全日本剣道連盟

審議員

大谷 正俊

全日本剣道連盟相談役中村龍夫先生が去る11月18日に齢86歳の生涯を終えられました。11月28日全剣連事務局からの電話で初めて知り、お元氣とばかり思い込んでおりました私は一瞬我が耳を疑い、言葉を失いました。

ここに謹んで哀悼の意を表し、衷心よりご冥福をお祈り申しあげます。

中村さん（人生、会社における大先輩をこうお呼びする無礼をお許し下さい）は茨城県、現在のつくばみらい市のご出身で昭和23年3月東京大学法学部をご卒業、日本鉱業(株)に入社されました。旧制浦和高校時代に一時専門家になるうかと考えた程剣道が好き（とご本人から伺いました）、かつ、それ程の腕前だったようです。私が入社しました昭和34年頃は道場での稽古着姿は拝見出来ませんでした。が、剣道、剣道部に対する愛情は持ち続けておられました。人事、管理部門が長く、経営者として、且つ業界の指導者として大変ご多忙にも拘わらず、剣道部を気にされよく声を掛けて下さいました。数々の要職を経て平成元年に社

長に就任されました。その前年竣工した新本社ビルの地下2階に立派な剣道場が出現しましたが、佐々木陽信会長（旧制武蔵高、京都大剣道部出身）との合作であったろうと、これは私の憶測です。剣道を通して心身共に健全な社員、産業人、社会人が増えることを期待されたと存じます。「虎ノ門剣友会」も果実のひとつに違いありません。

中村さんが全剣連副会長時代、全国教育系大学剣道連盟会長としてのご講話のなかで「社会人としての行動と経験の中で、今日何が残り生きているかと問うとき、直ちに浮ぶ行動原理や処世訓は、学生時代から、実践の中で反復された『剣道、武道、禅の関連のもの』である」と言われ、更に「私は産業人にとって大切な『三項目』を剣道から学んだー常に正攻法で臨む。反省はあっても後悔はない。ピンチには身を捨ててかかるー三つ子の魂が今も忘れられない」と述べておられます。

未だ混沌とする世相を見るにつけ、大切な方を失ってしまったという思いが強く残ります。言葉は尽くせませんが、中村先生の、世を想いこれから続く人達への期待をお伝えして拙文を捧げます。

中村先生、永い間のご指導ありがとうございました。

国際関係コラム・連載120

★今後の発展が見込まれる

アジアの剣道事情

アジアの剣道事情はヨーロッパなどに比較して複雑な様相となっている。一見するとアジアは剣道が発展しているように思えるが、国際剣道連盟に加盟している国と地域はオセアニアを含めアジアゾーンとしても11カ国・地域で意外に少ない。国際東アジアでは言うまでもなく、剣道の大勢力として日本、韓国の2国や台湾のような大きな剣道団体が存在する地域があり、それぞれ、剣道連盟としての活動が活発である。2009年のブラジルで開催された世界大会の直前に行なわれた国際剣道連盟(FIK)の総会で中国もFIKに正式加盟した。

東南アジアではマレーシア、シンガポール、タイ、香港、マカオがFIKに加盟している。一方、中央アジア、中東のFIK加盟国は現時点では存在しないが、最近、これらの地域で剣道活動を行なう団体が増えてきている。

中でもモンゴル、インドネシア、フィリピンは組織的活動がかなり活発になってきており、ベトナムでも組織的な剣道活動が始まっている。

中央アジアにおいても、カザフスタン、ウズベキスタン、キルギ

ス、ネパール等ではグループ規模の活動が見られる。

インド、パキスタンからは、様々な団体からFIK加盟に関する問い合わせが多くあるが、その大部分は他武道を行なっているグループで、自分たちが指導できる種目に「剣道」を追加したいだけで、活動実態がないケースが多い。

イランには剣道グループが存在するが、国の規則が厳しいせいかな発展するテンポが遅い。他の中東諸国では政情もあり、剣道活動が難しいのが現状である。

以上のように、アジアでは今後剣道が活発になる状況であるが、特に注目する必要があるのは、人口が世界第2位のインドである。最近、インド経済の発展には著しいものがあり、近い将来剣道愛好者の増加が期待できる。

今年、日本武道館主催の日本武道代表団は、日本インド国交樹立60周年記念事業として11月初旬に総勢71名を派遣し、インドで武道紹介の演武大会を挙行了した。

剣道派遣団もデリーで演武大会を行なったが、現地交流稽古の時間には現地人のグループが中南部の都市ハイデラバードより4名、電車で27時間かけて参加した（関連記事は本誌30頁を参照）。

今後、インドにおける剣道活動の発展は可能性を秘めている。